

社会科 学習指導案

大和郡山市立郡山西中学校 教諭 片浦 亮

1. 単元名 「消費」は「幸せ」か? —南アメリカ州を中心とした森林伐採から—

2. 単元の目標

- ・ 森林の減少している地域や国、その原因について教科書や諸資料から知り、森林の減少が地球環境や人間を含む生物に与える影響を理解する。 (知識・技能)
- ・ 身近なものや世界の森林減少の関係を知り、森林の減少を自分事としてとらえ、消費と森林の減少の関係を考え、森林減少に対して自分ができることを考える。 (思考・判断・表現)
- ・ 幸せについての価値観の幅を広げ、新たな価値観のもとで、自分が森林減少に対してできることを主体的に考え、自分の生活の中で変えられることを考え、クラスメイトと意見交流をする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、学習指導要領地理的分野「内容」(1)の「世界の様々な地域」ウ「世界の諸地域」にあたる南アメリカ州を中心に教材として取り上げる。南アメリカ州では、豊かな自然環境に関して、開発による経済発展と環境保護の両立が課題とされている。農地や牧場のための土地開発や鉱産資源獲得のための鉱山開発、資源としての森林の利用、大陸横断道路の建設といった活動により、目覚ましい経済発展がみられる一方で、アマゾン川流域の熱帯雨林の伐採といった環境破壊が見られる。これらの状況は南アメリカ州に限った話ではなく、森林減少が見られる世界中の地域で共通して見られることである。経済発展の裏側にみられる、アマゾン川流域の環境破壊は、大規模な熱帯雨林を抱えるブラジルの属する南アメリカ州だけの問題に留まらず、世界への酸素の供給機能の低下、二酸化炭素に代表される温室効果ガスによる地球温暖化にも影響を与えていると言われる。

人々の経済活動と自然環境の悪化の関係性を学習することで、自分たちの暮らす地域や国、世界における自然環境の課題を見出す。そして、その解決のために何が必要かを主体的に考え、自分自身の活動を振り返り、環境保全のための自分なりの行動を考え、実践できるようになるよさがある。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、学習に対する意欲は高く、積極的に学習に取り組む姿が見られる。学習に取り組む意欲の原動力は何かと問えば、将来に役立つからと答える生徒がほとんどである。しかし、その将来に役立つというのは、自分の将来の豊かな消費生活に役立つ、つまりお金を稼いで、自分が望むものが手に入る暮らしをするために役立つと考えている。「消費」することが「幸せ」であり、豊かな「消費」生活を送るために、日々の学習に取り組むというわけである。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、第1時では世界の森林が減少している事実を確認し、森林の減少が人々や地球にどのような影響を与えているかを理解する。第2時では南アメリカ州やアフリカ州、アジア州の国では何が原因で森林が減少しているかを調べる。第3時では第1時と第2時で学んだことと、自分たちの生活がどのように関係しているかを把握するため、海外の森林伐採の結果得られる身近な製品について知り、海外の森林減少を自分事としてとらえさせる。第4時では第3時で学んだことの一つとして、ブラジルの大豆生産を例に、森林の減少と自分たちや世界の人々の生活とを関連付けてとらえさせる。第5時では、消費生活に縛られすぎない生活について言及したウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領の演説から、消費とは違う幸せという新たな価値観を理解させる。

学習を通して身に付けた知識や考えから、自分の中に新たな価値観を獲得させる。今までの自分とは違う価値観で自分の行動を振り返り、地球環境のために自分ができることを考えさせていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

有限性…現在の地球の自然環境は、地球誕生から数十億年かけて作り上げられてきたもので、破壊が進むと、元に戻すには途方もない時間がかかる可能性があること。

公平性…現在の世代で環境破壊が進み、豊かな自然が失われてしまうと、今後生まれてくる世代がその利益を享受できないということ。

多様性…自分が成長の中で身に付けてきた価値観とは違う価値観と出会い、新たな価値観について知り、理解することは大切だということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーションを行う力

様々な立場に立って物事を考え、意見交流を通じて、それぞれの考えを理解する。

物事を問い直し、新たな方法を見いだす力

自然環境をよくすることの大切さだけでなく、人々の暮らしにも目を向け、環境保全と開発による経済発展の両立を目指す方法を考える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

現在の世代の環境破壊の裏にある経済的な豊かさだけでなく、未来の世代に豊かな自然環境を残していくことが大切である。

自然環境・生態系の保全を重視する

持続可能ではない開発による自然環境・生態系の破壊が未来の物質的豊かさや精神的豊かさを奪ってしまう。

・達成が期待されるSDGs

1 1 持続可能な都市・まちづくり

1 3 気候変動

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①森林が減少している地域やその影響、原因を諸資料から読み取っている。	①森林が減少している原因となっている活動と自分自身の生活を関連付けて、自分事としてとらえている。	①環境問題につながる自分自身の消費活動を振り返り、その課題と改善点について自ら追究している。
②読み取った資料から、森林が減少している地域やその影響、原因を理解している。	②習得した知識を基に、見出した新たな価値観を自分の言葉で表現している。	②習得した知識を基に、今までの自分になかった新たな価値観を見出そうとする態度を養っている。

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○世界の中で森林が破壊され減少している地域を知り、森林が減少することのデメリットについて既存の知識を使い考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林が破壊され減少されている地域は、主に南アメリカ州、アフリカ州、アジア州の中の東南アジアである。 世界全体として森林は減少している。 森林が減少することで、二酸化炭素を中心とした温室効果ガスが発生し、地球温暖化が進む。 気候変動により、食糧を生産できる地域が減少し、将来食糧不足に陥る可能性がある。 森林に暮らす生物の生息地域が奪われ、生物多様性が失われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図資料を提示し、世界のどの地域で森林が増加し、減少しているのかを視覚的にとらえさせる。 森林の増加、減少面積の資料を提示し、変化の量をとらえさせる。 森林が減少することは誰にとって、何にとって、どのような影響が出るのかを具体的に考えさせる。 森林の減少によるデメリットが、現在の自分の生活にどのような影響を与えるかを考えさせ、自分事としてとらえさせる。 	<p>△ア①</p> <p>△ア②</p>
2	<p>○森林面積の変化が大きい国 10 か国で森林が減少している国を調べ、減少している原因を知り、その原因はなぜ発生するのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林減少の主な原因は、道路の建設、農地開発、木材として利用するため 	<ul style="list-style-type: none"> すべての国において、共通点を問うことで、原因が人間の活動によるものであることをとらえさせる。 「消費生活」のために、森林の減少が進む現状を、なぜ疑問に答える 	<p>△ア①</p> <p>△ア②</p>

	の伐採、森林火災である。	ことととらえさせる。	
3	<p>○世界各地で森林が減少していることに、日本に住む自分の生活が関係していることを、資料から読み取り理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルからは主に鉄鉱石やトウモロコシ、コーヒー豆、大豆を輸入している。 ・日本の食料自給率は生産額ベース、カロリーベースのどちらでも減少が続いており、輸入に頼っている。 ・日本が輸入に頼るものを世界各地で生産するためには、農地開発や森林伐採が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林が減少している国から輸入しているものが、自分の普段の生活で目にしたことがあるものと一致することをとらえさせる。 ・自分が消費するものが、日本で作られたものか、海外で作られたものかを考えることで、海外での出来事を自分ごとに近づける。 ・輸入品の生産過程で、森林を含む環境に負荷がかかることをとらえさせる。 	<p>△ア① △ア② △イ①</p>
4	<p>○ブラジルの大豆を例に農業の現状と森林減少の原因を理解し、自分の生活との関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルは世界一の大豆生産国であり、作付面積は2019年では約3700万ヘクタールであり、2006年以降増加の一途をたどる。 ・生産した大豆の約60%が輸出されている。 ・日本の大豆の自給率は7%である。 ・日本はブラジルから大豆を年間約60万トン輸入している。 ・大豆は加工され、人々が利用したり、家畜の飼料となったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆に関係のあるものを連想させることで、大豆の身近さをとらえさせる。 ・大豆の転換レベルを進めて見ると、無関係に見える食肉や鶏卵も大豆と深い関係があることをとらえさせる。 ・自分たちの食生活と海外の食糧生産過程を関連付けて、自分の消費生活を振り返らせる。 	<p>△ア① △ア② △イ①</p>
5	<p>○元ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏の地球サミットの演説を聞き、幸せについて考え、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムヒカ氏によれば、「発展は幸せの邪魔をしてはならない。」 ・ムヒカ氏によれば、「必要最低限のもので満足する」ことが大切である。 <p>○学んできたことから、新たに考えたことをまとめ、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費は環境問題とつながっているた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムヒカ氏の幸せの基準や、幸せについての考え方、価値観を知り、自分の考え方、価値観と比較させ違いを理解させる。 ・授業を受ける前の価値観と新しく見出した価値観を比較して、自分の今後の行動をどのように変化させていくかを考えさせる。 	<p>△イ② △ウ① △ウ②</p>

	め消費を見直すことが大切である。		
--	------------------	--	--